

日本都市社会学会ニュース

NO. 88 (2011.3.31)

発行：日本都市社会学会

事務局：〒108-8636 東京都港区白金台 1-2-37

明治学院大学社会学部浅川達人研究室内

e-mail : usocio@mail.meijigakuin.ac.jp

FAX : 03-5421-5356

(振替口座：00140-4-703976)

URL : <http://urbansocio.sakura.ne.jp> ←URL が変わりました

歓迎の言葉

渡邊 登 (新潟大学)

本年3月11日に起きた未曾有の大地震（東北地方太平洋沖地震）によって現時点（3月22日午後午後3時現在）で死者数は12都道県で9,079人、行方不明者は6県で18,231人、避難者数は、16都県で318,823人とされています（「朝日新聞」2011年3月23日16面）。まず、多くの被害者の方々に哀悼の意を表するとともに、被災者の方々に心よりお見舞い申し上げます。

未だにその被害の全貌が明らかになっていない状況で軽々に語ることは差し控えるべきですが、私たちが経験したことのない今回の巨大地震の特徴は、巨大津波によって集落のみならず、地域社会全体が壊滅的な被害を受けたこと、さらに被災地に福島第1原発、同第2原発、宮城県女川原発と13機の原子炉が存在し、特に福島第1原発で炉心溶融の危機に陥るという原発被害が加わったことであると指摘することができると思います。立地地域の電力供給とは全く関わりのない原発被害によって、「局地化された受苦圏」（梶田孝道）である地域社会に崩壊の可能性が高まっています。

第29回の日本都市社会学会大会は、9月7日（水）、8日（木）に新潟大学（五十嵐キャンパス）でお引き受けすることになりましたが、本大会は未だかつて経験したことのない未曾有の大惨事が起こった年に開催される大会として特別な意味をもつように思います。私たちがこのような日本社会の危機に社会学者としてどのように真摯に対応するのか、特に阪神淡路大震災での調査研究の膨大な蓄積をもつ都市社会学者が地域社会の復興にどう向き合うかが問われているように思います。

(次ページに続きます)

東日本大震災で被災された皆様へ【お見舞い】

この度、東日本全域を襲った未曾有の災害に直面された本学会の会員の皆様、また広く関係の住民・市民の皆様に、心からお見舞いを申し上げます。都市社会を研究する者の集まりとして、私たちも、今回の事態を非常に重く受け止めております。学会としてできること、またなすべきことを至急検討してまいりたいと考えております。

ともあれ、まずは、被害にあわれた皆様が少しでも早く心の平安を取り戻され、また日常の生活に戻られますように、お祈りを申し上げます。

2011年3月13日

日本都市社会学会

会長 町村敬志

理事会一同

新潟県では2004年に新潟県中越地震、2007年に新潟県中越沖地震と2度の震災を経験しています。本学でも特に被害の大きかった中山間地を対象としてその復興をサポートするための具体的な提言を行う研究拠点として2006年に新潟大学災害復興科学センターを設置して自然科学・人文科学・社会科学を横断する学際的調査研究を進めています。都市型震災とは様々な点で異なるとはいえ、阪神淡路大震災の復興の経験がここには活かされています。今年度の大会では今回の事態に学会単位で対応が出来ないにしてもこれらの研究蓄積をもつ会員相互に情報を交換できるような場になればと願っています。

最後に新潟大学五十嵐キャンパスは、新潟駅からバスで約50分（電車と徒歩でも約40分）かかり、会員の皆様にはご不便をおかけしますが、是非、多数のご参加をお待ちしています。

日本都市社会学会 第29回大会開催について

1. 期間および主会場

期間 2011年9月7日（水）～8日（木）
主会場 新潟大学 五十嵐キャンパス（総合教育研究棟B棟）
〒950-2181 新潟市西区五十嵐2の町8050番地
（JR越後線「新潟大学前」駅下車）
新潟大学HP：<http://www.niigata-u.ac.jp/index.html>

2. 交通のご案内

新潟大学への主要な交通アクセスは、上越新幹線を利用して新潟駅からバスや列車を乗り継いでくるルートと、飛行機を利用して新潟空港からバスで新潟駅、その後バスや列車を乗り継いでくるルートに分けられます。

（1）新潟駅までのアクセス

①新潟空港まで飛行機を利用する場合

新潟空港は札幌、名古屋（小牧・中部国際）、大阪（伊丹）、福岡、沖縄との間で定期運航便があります*。所要時間は、札幌、名古屋、大阪から70分程度、福岡から1時間40分、沖縄で3時間程度です。新潟空港からは、リムジンバス（新潟交通）でJR新潟駅（終点）で下車してください。なお、「新潟駅」行きは「新潟駅（万代口）」行きと「新潟駅（南口）」行きとありますが、どちらも構いません（前者が急行で所要時間25分、後者は各停で30分です）。

*詳細な時刻表は<http://www.niigata-airport.gr.jp/flight/>を参照して下さい。

②新幹線を利用する場合

上越新幹線（「とき」）に乗車し、新潟駅で下車して下さい（東京駅からの所要時間は約2時間）。

③高速バスを利用する場合

交通費を節約したい学生会員にお勧めなのは、高速バスを利用することです。池袋駅東口から新潟駅まで、午前7時から1時間おきに運行されています*。所用時間は5時間20分とかなりかかりますが、料金往復で9,450円と新幹線の半分程度です。なお、この場合は終点は万代シティバスセンターですので、新潟大学に行く場合は新潟駅で必ず下車して下さい。

*詳細な時刻表は<http://www.niigata-kotsu.co.jp/kengaikousoku/tokyo.shtml>を参照して下さい。

(2) JR 新潟駅から新潟大学までのアクセス

①バスを利用する場合

JR 新潟駅（万代口）「新潟駅前バスターミナルのりば」7 番乗り場から「600 新潟駅前～西小針～内野営業所線」、「601 新潟駅前～西小針～新潟大学線」、「602 新潟駅前～西小針～新潟大学～内野営業所線」に乗り、「新潟大学正門」「新潟大学中門」「新潟大学西門」で下車（所要時間は約 50 分）。各停留所から大会会場である総合教育研究棟までは徒歩で 5 分程度。料金は 460 円です（降車時支払い）。

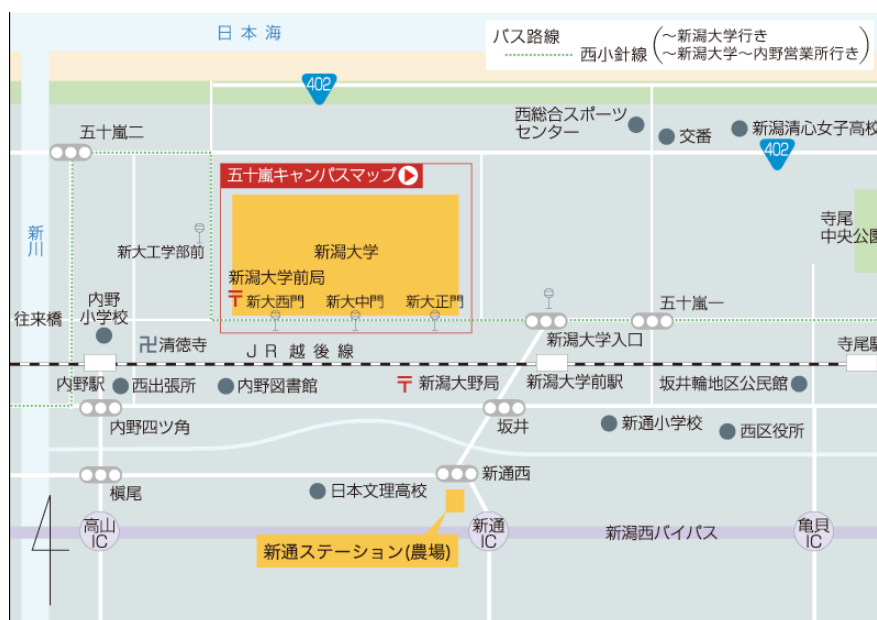
なお、同乗り場から「600 新潟駅前～西小針～内野営業所線」「607 新潟駅前～西小針～信楽園病院線」に乗って「新大入口」で下車するという手もありますが、10 分以上は歩かなければならないので、あまりお勧めできません。時刻表*をご確認いただき、上述の各停留所で下車されるのが楽です。

*<http://bus.niigata-inet.or.jp/view.asp?ROUTEID=27&POINTID=2007&STOPID=7>

②JR 越後線を利用する場合

JR 新潟駅から「新潟大学前駅」で下車し（所要時間 20 分程度）、徒歩で 15 分程度。

なお、新潟駅からタクシーで約 30 分ですが、料金は 4,000 円程度かかります。



3. 宿泊のご案内

宿泊施設は新潟駅前（万代口）エリア、新潟駅前（南口）エリア、万代エリア、古町エリアに分かれます。ここでは数の多い新潟駅前（万代口）エリアのみご紹介します。料金は全てシングルです。

それ以外のエリアにも多くのビジネスホテルがあり、最寄りの停留所から、前述の路線バスで新潟大学まで行くことができます。

○新潟東急イン	Tel (025) 243-0109	1 泊 ¥6,825～
○ニイガタステーションホテル	Tel (025) 243-5151	1 泊 ¥5,250～
○ホテルカワイ	Tel (025) 241-3391	1 泊 ¥4,400～
○ホテルハイマート	Tel (025) 243-3161	1 泊 ¥4,630～
○コンフォートホテル新潟駅前	Tel (025) 242-0611	1 泊 ¥6,500～
○ホテルリッチ新潟	Tel (025) 249-3611	1 泊 ¥5,700～
○新潟東映ホテル	Tel (025) 244-7101	1 泊 ¥8,085～

○コートホテル新潟	TEL (025) 247-0505	1泊 ¥6,930～
○アーバネックスイン	TEL (025) 255-1500	1泊 ¥4,750～
○東横イン新潟駅前	TEL (025) 241-1045	1泊 ¥6,090～
○新潟第一ホテル	TEL (025) 243-1111	1泊 ¥5,880～
○シングルイン新潟第1	TEL (025) 241-3003	1泊 ¥4,380～
○新潟ターミナルホテル	TEL (025) 241-7777	1泊 ¥4,515～
○ホテルレオパレス新潟	TEL (025) 249-8100	1泊 ¥7,400～
○新潟グリーンホテル	TEL (025) 246-0341	1泊 ¥4,620～
○シングルイン新潟第3	TEL (025) 243-3900	1泊 ¥4,380～
○ホテルサンルート新潟	TEL (025) 246-6161	1泊 ¥8,000～
○シングルイン新潟第2	TEL (025) 243-3980	1泊 ¥7,200～
○シングルイン新潟第2新館	TEL (025) 246-4980	1泊 ¥4,580～
○ニイガタ和光ホテル	TEL (025) 241-5000	1泊 ¥4,000～
○ホテルアルファワン新潟	TEL (025) 246-5555	1泊 ¥4,900～
○ドリーイン新潟本館&アネックス	TEL (025) 247-7755	1泊 ¥5,040～
○スーパーホテル新潟	TEL (025) 247-9000	1泊 ¥4,580～

会員の皆様へのお知らせ

1. 自由報告の募集 ※申し込み方法にご注意ください

第29回大会の自由報告を募集します。どうぞ奮ってお申し込みください。

なお、自由報告の申し込みと同時に報告要旨を提出していただき、7月発行の「学会ニュース」（第89号）に自由報告要旨を掲載することになっております。

自由報告を希望される会員は、下記の要領で、自由報告の申し込みと自由報告要旨の提出を同時に行ってください。

(1) 自由報告の申し込みおよび報告要旨の提出方法（締め切り：2011年6月5日（日））

次の①～⑤をA4サイズ1枚に記し、保存した文書ファイルを、6月5日（日）午後6時までに学会事務局（usocio@mail.meijigakuin.ac.jp）宛に、E-mailに添付してお送りください。

①報告タイトル（仮題は不可です）、②報告者氏名・所属（共同報告の場合は登壇者に○をつける）、③報告要旨（50字×20行以内を厳守）、④発表時に使用する機材、⑤連絡先（郵便番号・住所・電話番号・E-mailアドレス）

なお、使用する機材については、会場の都合により不可能となる場合もあります（パワーポイントを使用する場合、PCは持参していただきます）。また、申し込み締め切りを過ぎたものについては、一切受け付けないことになっています。メンテナンスなどのためにサーバーが一時不通になることもありますので、余裕を持って申し込みされるようお願いいたします。

(2) 注意事項（必ずお守りください！）

共同報告の場合、登壇者は日本都市社会学会の会員に限ります。なお、未入会の方が報告を希望される場合は、申し込みを行う前に、入会の手続きをお済ませください。入会手続きについては、学会ホームページをご覧ください。

添付ファイルは、原則としてテキスト形式とします。ただし、Microsoft Windowsを基本ソフトとするパソコンで作成したものに限り、「Microsoft Word（2003, 2007）」形式でも結構です。

- ①「報告の要旨」を会員に事前にお知らせすることを目的としておりますので、図表は入れ込まず、文章のみで作成してください（学会ニュース1ページに2報告の要旨を掲載します）。
- ②この要領に反し、本文が1行50字で20行を超えていたり、図表が入っていたりする場合は、数日以内に訂正をお願いすることになります。また、期限内に訂正されない場合は、報告を放棄されたものとみなしますので、ご注意ください。
- ③なお、大会当日にレジュメ／資料を配布する場合は、各自で別途ご用意ください。

＜自由報告申し込みと報告要旨原稿の提出＞

締め切り：6月5日（日）午後6時までに事務局必着

申し込み・報告要旨原稿提出の方法：E-mailによる

申し込み・報告要旨原稿提出先：学会事務局 usocio@mail.meijigakuin.ac.jp

2. テーマ報告部会 報告者の募集について

次回の第29回大会では、新たな企画としてテーマ報告部会を実施いたします。共通テーマは「都市とサブカルチャー」です。本来、都市はサブカルチャーを生み出し、育む場としての役割を担ってきました。現代都市におけるサブカルチャーとそれを取り巻く諸事象をどのように読み解くことができるか、複数の事例をもとに検討し、議論を深めたいと思います。

本テーマ報告部会の実施にあたって、国内外を問わず、都市におけるサブカルチャーに関する調査研究を行っている方々の報告申し込みをお待ちしています。特に若手研究者の報告を歓迎します。ふるってご応募ください。

なお、報告申し込み書類の書式・期限等は自由報告と同じです。テーマ報告部会を希望する場合は、その旨明記してください（希望者多数の場合は、自由報告に回っていただくことがあります）。

3. 理事会報告

2010-11年度第2回理事会が、3月6日（日）午後3時から明治学院大学社会学部附属研究所会議室にて開催されました。企画委員会報告では、2011年度大会のシンポジウムおよびテーマ部会の準備状況について報告がなされました。渡戸常任理事より、JSTによる『日本都市社会学会年報』の電子ジャーナル化が実現したことの報告がなされました。事務局より、第7回日本都市社会学会賞（磯村記念賞）の選考が開始されたことが報告されました。また、入会および退会の承認、次回大会および次々回大会について審議されました。

4. 企画委員会報告

＜研究会報告＞

企画委員会では、3月6日（日）14時から明治学院大学にて、2011年度大会のテーマ部会に向けての研究会を開催した。本研究会は、テーマ部会のテーマ案であるリスクとコミュニティの変容を深めるために、とくに犯罪リスクに対してコミュニティがいかに関わっているのかという点を、具体的な事例研究に照らして考えていきたいという趣旨のもとで開催されたものである。

報告は、新宿歌舞伎町における犯罪の調査研究を行っている武岡暢氏（東京大学大学院）により、「繁華街における『犯罪』とその対策の問題—新宿歌舞伎町の事例から—」というタイトルで行われた。研究会では、約15名の参加者が集まり、終了予定時刻をかなり超過するほど白熱した議論が展開された。武岡氏の報告では、警察による歌舞伎町の取締りと地元商店街振興組合による自主パトロールの現況から、都市社会の多元性・複層性のなかでのリスク管理の複雑性が示唆され、盛り場という事例を通して、リスク管理における閉鎖的なコミュニティ像を脱構築していくことの必要性

があらためて感じられた。大会・テーマ部会リスクとコミュニティをめぐるテーマの可能性を広げることのできる、有意義な研究会であった。

(企画委員 中西典子)

＜第29回大会＞

第29回大会では、新たな試みとして「テーマ報告部会」を設置します。これは、自由報告部会とテーマ部会の中間的な位置付けの部会です。「都市とサブカルチャー」という日本都市社会学会ならではのテーマです。意欲的な報告と活発な議論を期待しています。

またテーマ部会は、3月の研究会を踏まえて「都市社会におけるリスクとコミュニティ～犯罪・災害を中心に（仮）」と題して開催します。報告者は、渥美公秀（大阪大学）田中重好（名古屋大学）五十嵐泰正（筑波大学）の各氏、討論者として、中筋直哉（法政大学）氏と武岡暢（東京大学）氏のお二人を予定しております。詳細は、次回学会ニュースでお知らせ致します。

そしてシンポジウムでは、昨年のテーマ部会に引き続き「貧困」問題を取り上げます。以下の＜シンポジウム概要＞をご覧ください。

(常任理事・企画委員長 早川洋行)

＜シンポジウム概要＞

都市社会学は「貧困」にどう向き合うか

【趣旨】

貧困は都市研究の草創期から主要なテーマのひとつであったことは言うまでもない。今日、都市の貧困は現代的な社会的問題として浮かび上がっている。都市研究はこの課題にどのように向き合うのかが問われており、都市社会学もその例外ではいられない。このことから、2010年大会テーマ部会に引き続き、「貧困」を組上に載せることとした。2010年度大会におけるテーマ部会は「大都市における貧困の現在」をテーマに掲げた。ここでは「『貧困問題』と呼ばれている事象を取り上げ、特に『都市部』、『現状把握』に焦点」（2010.7.26 ニューズレター86）を当てることにより、貧困の今日的状況を浮かび上がらせることを企図していた。当日の議論からは、都市社会学が貧困を対象とする際の理論と実証、あるいは研究と実践をどのように結びつけるかという重い課題が提起された。

このような問題提起を受けて、2011年のシンポジウムでは都市社会学が今日的な問題としての貧困について、どのように対象化するのか、また何を明らかにできるのかを考えていきたい。その際に、第1に経済的貧困だけでなく、社会学（特に都市社会学）が取り組んできた「社会関係」および「排除・包摂」の問題に焦点を当てること、第2に「高齢化」「ジェンダー」といった都市の貧困と密接に関わる論点との接合も視野に入れること、の2点を意識して議論を組み立てたいと考える。豊富なフィールドワークの蓄積を踏まえた報告と都市社会学内外からの討論者の問題提起から、都市社会学における貧困研究の可能性を検討することを目指している。

報告は、都市下層について豊富なフィールドワークを蓄積するとともに、都市下層研究の理論化にも取り組んでいる西澤晃彦氏、フィールドワークを通して孤独死の問題を検討している松宮朝氏、ジェンダーの視点も視野に入れた都市下層研究を展開している文貞實氏の3名にお願いした。討論者には都市社会学の内部からは西田芳正氏、また学会外からは岩田正美氏を迎え、フロアも含めて活発な議論を行いたいと考えている。

【報告者】西澤晃彦（東洋大学）・松宮朝（愛知県立大学）・文貞實（中部学院大学）

【討論者】岩田正美（日本女子大学）、西田芳正（大阪府立大学）

【司 会】早川洋行（滋賀大学）、山本かほり（愛知県立大学）

(企画委員 高木恒一)

5. 編集委員会報告

『年報』29号は9月に開催される第29回大会で皆様に配布する予定です。今回の年報では、昨年の第28回大会で開催されたシンポジウムにもとづき、「映像フィールドワークと都市社会学」を特集します。

その他、例年通り、自由投稿論文、書評などが掲載される予定です。目下、編集作業を行っています。地震と津波にともなう計画停電、交通機関の乱れなどで、これからさまざまな困難が予想されますが、予定通り刊行できるように努力していく所存です。関係者にはいろいろとご協力をいただく必要があるかと思っておりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

なお、最終工程の編集と印刷は、今年から文成印刷にお願いする予定です。『年報』に関するご意見、ご要望がありましたら、首都大学東京の編集委員会事務局までご連絡ください。しばらくは郵送やファックスではなく、メールでの連絡がもっとも確実に迅速かと思っておりますので、ご協力のほどお願いいたします。

(常任理事・編集委員長 玉野和志)

6. 電子ジャーナルによる『日本都市社会学会年報』の公開について

かねてよりご報告しておりました本学会の学会誌『日本都市社会学会年報』の電子ジャーナル化の作業が終了し、去る2月7日、科学技術振興機構(JST)のJournal@rchiveで本学会誌のバックナンバー(1983年の創刊号から2008年の26号まで)が公開されました。たとえば創刊号を見ると、学会創設時の雰囲気なども伝わりますし、その後の本学会の歩みも手に取るように分かります。また、1989年の7号には鈴木栄太郎遺稿『社会学概論』、2001年の19号には「特殊飲食店女子組合員調査(いわゆる「磯村調査データ」)」など、貴重なものも収録されています。

このアーカイブには、JSTのサイトから会員・非会員を問わず、どなたでもアクセスできますので、本学会の学問的遺産が広く活用されることを期待しております。なお、国立国会図書館のISSNオンラインジャーナルとしても登録されています(ISSN1884-4839)。

予算の制約から1年、遅れた公開となりましたが、無事公開に漕ぎつけることができ、担当者として一安心です。今後、本学会では、27号以降の新しいバックナンバーも原則として刊行2年後には順次同機構のJ-STAGEで公開する予定です、よろしくお願い致します。

(常任理事 渡戸一郎)

なお、Journal@rchiveの『日本都市社会学会年報』についてのページへは、下記のURLよりアクセスすることができます。

http://www.journalarchive.jst.go.jp/japanese/jnl1top_ja.php?cdjournal=jpasurban1983

本学会のホームページからもアクセスできるように、リンクを貼りました。なお、日本都市社会学会のホームページのURLが変わっております。震災に伴う計画停電の影響で本学会のホームページを載せているサーバーが稼働停止したため、学会のホームページを別のサーバーに移動せざるを得なかったためです。新しいURLは、下記の通りです。

<http://urbansocio.sakura.ne.jp>

(事務局担当理事 浅川達人)

7. 『日本都市社会学会年報』30号(2012年発行)自由投稿論文・研究ノート of 募集について

編集委員会では、『日本都市社会学会年報』30号(2012年発行)に掲載する「自由投稿論文」、「研究ノート」および「書評リプライ」を募集します。投稿を希望される会員の方は、『年報』29号(2011年発行)に掲載される編集規定、投稿規定、および執筆要項をご覧の上、審査用原稿(3部)を2011年11月30日(消印有効)までに編集委員会事務局あ

て、余裕をもって郵送して下さい。なお25号より英文要約を掲載することとなっております。投稿ご希望の方はこの点お含みおき下さい。会員諸氏の奮っての投稿をお待ちしています。

投稿資格のないもの、投稿期限を過ぎたものは一切受け付けられませんので、くれぐれもご注意ください。

※本年9月の大会終了後、編集委員会事務局が移転する予定です。これにあわせて投稿原稿の送り先も変更になります。詳細は11月初旬までに発行予定の「学会ニュース」または学会ホームページで確認してください。

(常任理事・編集委員長 玉野和志)

(2011年大会まで)

〒192-0397 八王子市南大沢1-1

首都大学東京人文科学研究科社会学分野 玉野和志研究室 気付
日本都市社会学会編集委員会事務局

電話・FAX : 03-3489-7230

E-mail : tamano@k.email.ne.jp

8. 首都大学東京「グローバリゼーションのもとでの都市と国家の再編成」講演会のご案内

首都大学東京「グローバリゼーションのもとでの都市と国家の再編成」

State Rescaling under Globalization

講演会のご案内

首都大学東京の社会学分野では、学内の研究費を活用して、表記のテーマにもとづく国際講演会およびワークショップを開催します。今年度はソウル国立大学のパク・ベギョン氏を招き、韓国における地方分権改革を事例に、東アジアの開発主義国家におけるリスケーリングについての講演会を開催します。そのうえで、日本における都市と国家のリスケーリングに関する研究を海外へと発信していくために、国内外の研究者間の交流と支援の場を研究会として組織していこうと考えています。地方分権、都市、国家のリスケーリングなどに関心のある会員の皆様の積極的な参加をお願いします。

講演会の予定については、以下の通りです。研究会の設立を目的としたワークショップにもご関心のある方は、事前に直接玉野 (tamano@k.email.ne.jp) までメールでご連絡ください。

首都大学東京講演会

東アジア開発主義国家におけるスケール間の緊張とリスケーリング

——韓国地方分権改革における中央・地方の対立と政治過程

ソウル国立大学 パク・ベギョン

日時：5月13日（金）15:00～16:00

場所：首都大学東京南大沢キャンパス国際交流会館大会議室

通訳あり、参加無料

※ 講演会終了後、研究会設立のためのワークショップを開催する予定です。こちらへの参加も希望される方は、事前に玉野 (tamano@k.email.ne.jp) までご連絡ください。詳しくはホームページ

(<http://tmusociology.blog134.fc2.com/blog-entry-156.html>) でご確認をいただければ幸いです。

担当者：首都大学東京人文科学研究科社会学分野 玉野和志

9. 日本村落研究学会による英語プレゼンテーション向上のためのセミナーのご案内

日本村落研究学会では、英語によるプレゼンテーション能力の向上を目的としたセミナーを開催しており、この機会を社会学系コンソーシアム参加学協会の会員にも開放して下さるとのことです。セミナーの詳細につきましては、社会学系コンソーシアムのホームページ (<http://www.socconso.com/callstudygr/index.html>) をご覧ください。

会員異動

新入会員 (2011 年 3 月 6 日理事会承認)

<関東地区>

金 善美 一橋大学大学院
五十嵐泰正 筑波大学

<中部・関西地区>

川野英二 大阪市立大学

退会

<北海道・東北地区>

佐久間政広 東北学院大学

夫 徳柱 慶應義塾大学大学院

楊 盈璋 慶應義塾大学大学院

<関東地区>

小山田基香 立教大学大学院
大場泰博 茨城総合研究所
酒井 出 東洋大学
相川陽一 一橋大学大学院
石渡雄介 東京都立大学大学院
田中大介 筑波大学大学院
坪田典子 東京都立大学大学院
寺田篤生 一橋大学大学院

<中部・関西地区>

平松道夫 名古屋女子大学
野辺政雄 岡山大学
高木一成 サーベイリサーチセンター
岩泉奈緒 関西学院大学大学院
脇 穂積 関西学院大学大学院
辻 泉 松山大学
桃原一彦 沖縄国際大学

学会事務局より

- ◆東日本巨大地震にて被災された全ての方々に、お見舞い申し上げます。
- ◆今回の大地震の影響で、本学会ニュースの入稿が遅くなったため、会員みなさまにお届けするのが例年よりも遅くなってしまいました。お詫び申し上げます。
- ◆日本都市社会学会のホームページのURL が変わりました。震災に伴う計画停電の影響で本学会のホームページを載せているサーバーが稼働停止したため、学会のホームページを別のサーバーに移動いたしました。そのために、このような変更が生じました。新しいURL は、下記の通りです。

<http://urbansocio.sakura.ne.jp>

(事務局担当理事 浅川達人)